

2.4 木曽川

(1) 水域の概況

木曽川水系は、長野県木曽郡木祖村の鉢盛山(標高 2,446m)を源とする木曽川と、岐阜県郡上市の大日ヶ岳(標高 1,709m)を源とする長良川、岐阜県揖斐郡揖斐川町の冠山(標高 1,257m)を源とする揖斐川の 3 河川を幹川とし、山地では峡谷をなし、それぞれ濃尾平野を南流し、我が国最大規模の海拔ゼロメートル地帯を貫き、伊勢湾に注ぐ、流域面積 9,100km² の我が国でも有数の大河川である。地域では、これら 3 河川を木曽三川と呼んでいる。

木曽川は、長野県にある木曽谷と呼ばれる溪谷を源流域として、中山道沿いに南南西に下り、途中、王滝川、落合川、中津川、付知川、阿木川、飛驒川等の支川を合わせながら、濃尾平野に入った後は、北派川、南派川に分派した後、再び合流し、一宮市の西側を南下して、長良川と背割堤を挟んで並行して流れ、伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長 229km、流域面積 5,275km² の一級河川である。

河床勾配については 1/500 から 1/5,000 程度であり、河口域ではほぼ水平である。

木曽川水系の流域は、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県の 5 県にまたがり、中京圏を擁した濃尾平野を流域に抱え、流域内人口は約 190 万人に達する。人口は、全体として増加傾向にあるものの、上流域においては過疎化が進んでいる地域もある。

流域の土地利用は、林地等が約 80%、水田、畑地等の農地が約 11%、市街地が約 7%、開放水面が約 2%となっており、平地のほとんどが濃尾平野である。

(出典：木曽川水系河川整備基本方針 平成 19 年 11 月 国土交通省河川局)

(2) 水質の状況

1) 水域類型指定状況 (図 2.43)

既存生活環境項目(BOD、COD、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目)の水域類型指定状況は、木曽川上流、中流及び下流の 3 区分で、木曽川上流が AA 類型、それより下流が A 類型に指定されている。

また、湖沼については、味噌川ダム貯水池ダムサイトが湖沼 A 及び II 類型に指定されている。

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

2) 水質汚濁の状況 (表 2.11、図 2.44～図 2.46)

BOD75%値の 5 年平均で見ると、水質の改善傾向が見られており、近年(平成 14～18 年度)では、概ね BOD の環境基準を満たしている。

味噌川ダム貯水池ダムサイトは、平成 16～18 年度のデータをみると平成 16、18 年度の全リン以外は COD、全リンの環境基準を満たしている。

3) 亜鉛の水質の状況 (図 2.47～図 2.49)

平成 17～18 年度の調査の結果、年平均の全亜鉛濃度は、全地点とも 0.01mg/L 以下である。

木曽川本川における亜鉛排出事業所としては下水処理場・精密機器器具製造業等、全体で 22 件存在しており、そのうち当該水域へ直接放流する事業所(PRTR 対象事業所)は 15 件で、年度排出量が 1000kg 超・100kg 超・10kg 超・1kg 超・1kg 以下の順で見ると 1 件・2 件・5 件・6 件・1 件となっている(出典：平成 18 年度水質汚濁物質排出量総合調査データ、平成 18 年度 PRTR データ)。

(3) 水温の状況 (図 2.50、図 2.51)

水温は、木曽川上流で平均水温 12℃程度であるが、下流に向かうに従って上昇し、木曽川下流の尾張大橋より下流で平均水温 15～16℃程度となっている。

また、味噌川ダム貯水池ダムサイトでは、平均水温 12℃程度となっている。

(4) 水域の構造等

1) 河床材料 (図 2.52)

木曾川における主な河床材料は、犬山頭首工から上流では岩盤が中心、濃尾大橋～犬山頭首工では石や礫が中心、濃尾大橋から下流では砂が中心となっている。

2) 流量 (図 2.53)

低水流量は、犬山で 136m³/s 程度となっている。

3) 主な河川構造物 (図 2.54)

堰として木曾川大堰、頭首工として犬山頭首工があり、魚道が設置されている。またダムとしては、味噌川ダム、読書ダム、山口ダム、落合ダム、大井ダム、笠置ダム、丸山ダム、兼山ダム及び今渡ダムがあり、味噌川ダム、今渡ダムに魚道が設置されている。

(5) 魚介類の生息状況 (表 2.10、表 2.12、図 2.55、図 2.56)

1) 冷水性の魚介類

(a) 基礎情報

冷水性の魚介類は、河川水辺の国勢調査(国土交通省)等によると、アマゴが中濃大橋及び玉蔵大橋で確認されている。

(b) ヒアリング情報

表 4.1 のとおりとする。

2) 温水性の魚介類

(a) 基礎情報

温水性の魚介類は、河川水辺の国勢調査(国土交通省)等によると、一般的にコイ、フナ類、オイカワ、ウグイ、シマヨシノボリ等が確認されている。

(b) ヒアリング情報

表 4.1 のとおりとする。

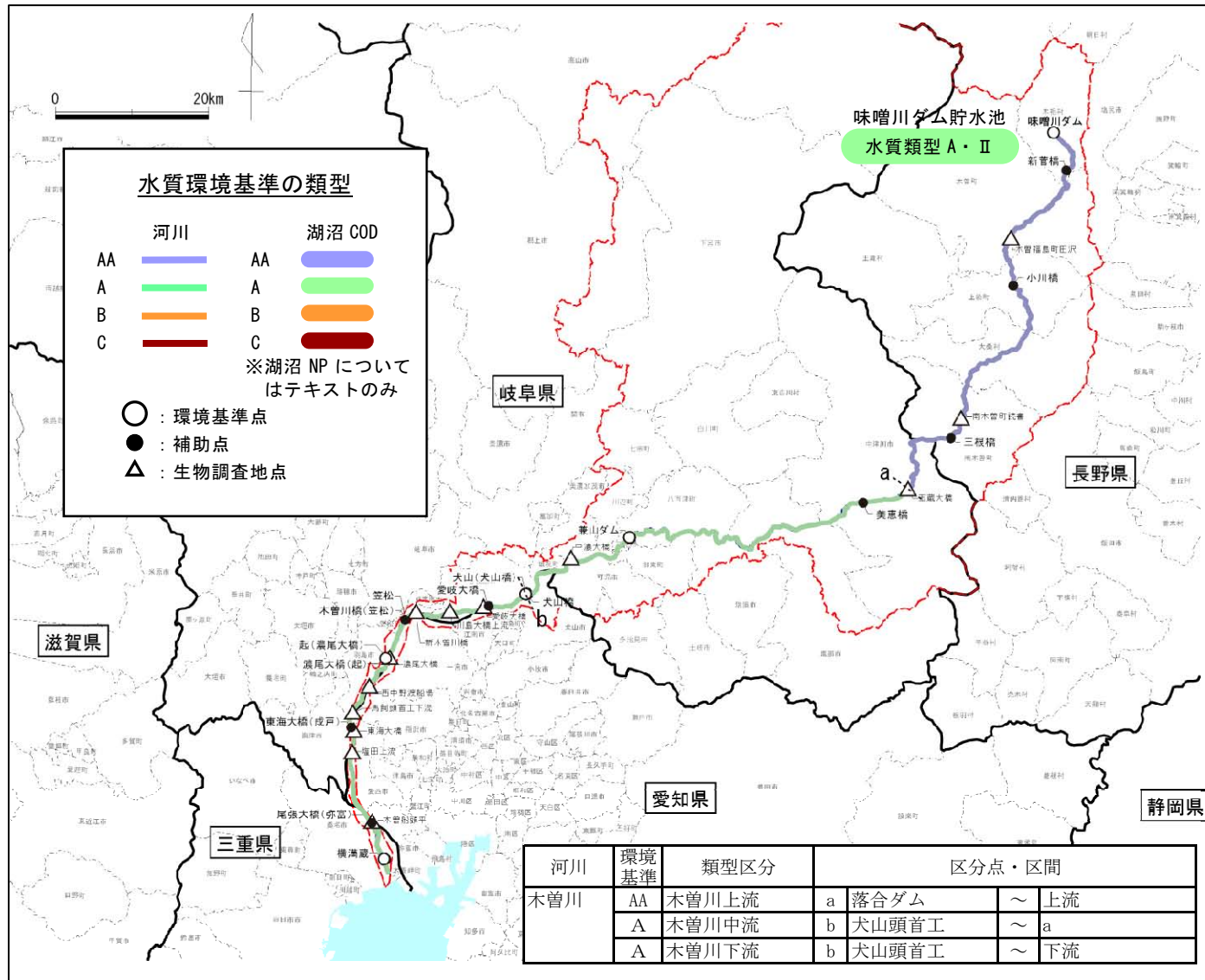
3) その他

アユは、河川水辺の国勢調査(国土交通省)によると、玉蔵大橋より下流で一般的に確認されている。

また、木曾川においては東海大橋より上流の岐阜県・愛知県内に内水面の漁業権が設定されており、アユ・アマゴ・ウナギ・フナ等の放流も実施されているが、東海大橋より下流域には漁業権が設定されていない。

表 2.10 魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理(木曾川)

項目	ヒアリング結果 (回答機関名)	
	岐阜県 (上流)	岐阜県・三重県 (下流)
魚介類の生息範囲	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマトイワナ、アマゴ、ウグイが最も多い。その他ウナギ、カジカ、アカザ、カマツカがあげられる (長野県木曾川漁協)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イワナは恵那市より上流に生息している (岐阜県河川環境研究所)。 ・全域に生息する。味噌川ダムにはイワナが多い (長野県木曾川漁協)。 ・イワナ・アマゴは主に支流の上流に生息している (木曾川中流漁協・日本ライン漁協)。 ・ニジマスは笠置ダムから今渡ダムの区間で生息している (木曾川中流漁協) <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河口～中流域 (河口から 100km 程度まで) に多く生息していると考えられる (岐阜県河川環境研究所)。 ・コイは全域に生息する。フナは本流の下流域で若干見られる (長野県木曾川漁協)。 	<p>①代表的及び特徴的な魚介類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、サツキマス、ウナギ、コイ、フナ、ウグイである (愛知県木曾川漁協)。 <p>②イワナ・ヤマメ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬飼頭首工まではサツキマスが遡上している (愛知県木曾川漁協)。 <p>③コイ・フナ類等の生息範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全域に生息している (愛知県木曾川漁協)。
魚介類等資源の保全	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、アマゴ、ウナギを放流 (長野県木曾川漁協)。 	<p>①放流魚種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アユ、フナ、ウナギ、アマゴ、ウグイ、オイカワを放流 (愛知県木曾川漁協)。
河川環境	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム等によって近年は山からの転石・土砂の供給が少なくなっている (長野県木曾川漁協)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堰などの人工構造物が多くみられる。(岐阜県河川環境研究所)。 	<p>①河床材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示資料で網羅されている (愛知県木曾川漁協)。 <p>②堰・ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬飼頭首工、犬山頭首工があげられる (愛知県木曾川漁協)。



注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

図 2.43 水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況(木曽川)

表 2.11(1) 近年の水質の状況(木曾川)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	BOD					pH			DO				SS				大腸菌群数									
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準						
河川	木曾川上流	AA	新管橋	H16	<0.5	1	0.7	0.8	1	6.9	8	6.5~8.5	8.3	12	10	7.5	<1	24	5	25	430	15000	4300	50						
				H17	<0.5	0.8	0.6	0.7		6.9	7.3		8.9	12	10		<1	8	3		230	24000	6200							
				H18	<0.5	0.8	0.6	0.7		7.1	7.6		8.1	12	10		1	58	8		43	43000	6200							
			小川橋	H16	<0.5	0.9	0.6	0.7		6.9	8.6		9.1	13	11		1	10	3		430	24000	6100							
				H17	<0.5	1.5	0.7	0.9		6.8	7.3		8.9	14	11		<1	6	2		930	24000	7100							
				H18	<0.5	0.5	0.5	<0.5		6.9	7.6		9	13	11		<1	23	4		430	9300	3600							
			三根橋	H16	<0.5	1	0.6	0.7		6.8	8.6		8.9	13	11		<1	13	3		230	46000	6900							
				H17	<0.5	1	0.6	0.5		6.6	7.1		9.5	14	11		<1	8	2		150	240000	25000							
				H18	<0.5	0.6	0.5	<0.5		7	7.6		8.8	13	11		<1	24	4		230	43000	5900							
		落合ダム	H16	<0.5	1.3	0.7	0.8	7.2	7.4	8.8	13	11	1	8	3	79	7900	2400												
			H17	<0.5	0.8	0.6	0.7	7	7.5	8.6	14	11	1	3	2	330	54000	6900												
			H18	<0.5	0.7	0.6	0.6	7.2	7.6	9.3	14	11	<1	14	3	330	35000	4700												
		木曾川中流	A	美恵橋	H16	<0.5	1.4	0.9	1.1	2	7.2	7.6	6.5~8.5	8.6	13	10	7.5	<1	7	2	25	700	54000	7100	1,000					
					H17	<0.5	1	0.7	0.7		7.1	7.6		8.7	15	11		<1	4	2		330	35000	7300						
					H18	<0.5	0.8	0.6	0.7		7.3	7.6		9.8	13	12		1	13	3		490	4900	2000						
				兼山ダム	H16	<0.5	1.6	0.8	0.9		7.2	7.5		8.9	14	11		<1	14	3		20	35000	6500						
					H17	0.6	2.5	1.2	1.1		6.7	7.7		9	15	11		<1	3	1		49	9200	1500						
					H18	<0.5	1.9	1	1.3		7	8.3		9.6	15	12		1	12	3		33	4900	1400						
	犬山橋		H16	<0.5	1.1	0.7	0.7	7	7.3		8.1	12		10	2	24		6	3300	540000		58000								
			H17	<0.5	1.4	0.7	0.7	6.8	7.6		7.8	12		10	1	22		4	1300	33000		12000								
			H18	<0.5	0.9	0.6	0.7	7.2	7.5		7.8	12		10	1	11		4	3300	49000		21000								
	木曾川下流		A	愛岐大橋	H16	<0.5	1	0.7	0.7		2	7.2		8.4	6.5~8.5	9.2		13	11	7.5		2	22	6		25	940	49000	18000	1,000
					H17	<0.5	0.9	0.6	0.6			6.9		8.2		8.4		13	11			1	28	5			460	13000	3100	
					H18																									
		木曾川橋(笠松)		H16	<0.5	0.9	0.6	0.7	7.1	7.5		8.3	12	10		2	22	6	230		79000	20000								
				H17	<0.5	0.9	0.6	0.6	7	7.8		7.5	12	10		1	28	5	700		22000	4600								
				H18	<0.5	0.9	0.6	0.6	7.2	7.4		7.5	12	9.9		1	11	5	2200		4900	3800								
		濃尾大橋(起)		H16	<0.5	0.9	0.6	0.6	7.1	7.6		7.8	12	10		1	24	7	700		350000	39000								
				H17	<0.5	1.1	0.6	0.7	6.9	7.5		7.9	12	10		1	31	6	170		49000	7300								
				H18	<0.5	0.7	0.5	0.5	7.2	7.5		7.3	12	9.8		1	15	5	1700		79000	12000								
		東海大橋(成戸)	H16	<0.5	0.9	0.6	0.7	7	7.7	8.3		12	10	2		23	7	22	79000		18000									
			H17	<0.5	1.2	0.7	0.7	7	7.5	7.7		13	10	1		16	5	220	3300		1500									
			H18	<0.5	0.9	0.6	0.6	7.2	7.8	8.1		12	9.9	1		19	5	490	11000		5200									
		尾張大橋(弥富)	H16	<0.5	6.6	1.2	0.5	7	7.8	7		12	9.8	1		29	11													
			H17	<0.5	2.2	0.8	1	6.9	7.5	6.5		11	9.2	1		45	13													
			H18																											
		横満蔵	H16	<0.5	8.1	1.1	1	7	8.5	6.7		13	9.6	1		42	9	4	49000		6700									
			H17	<0.5	4	1.2	1.5	7	8.6	6		11	8.9	1		16	7	6	3300		560									
			H18	<0.5	1.3	0.7	0.7	7.1	7.9	6.4		11	8.6	2		23	7	70	4900		1200									

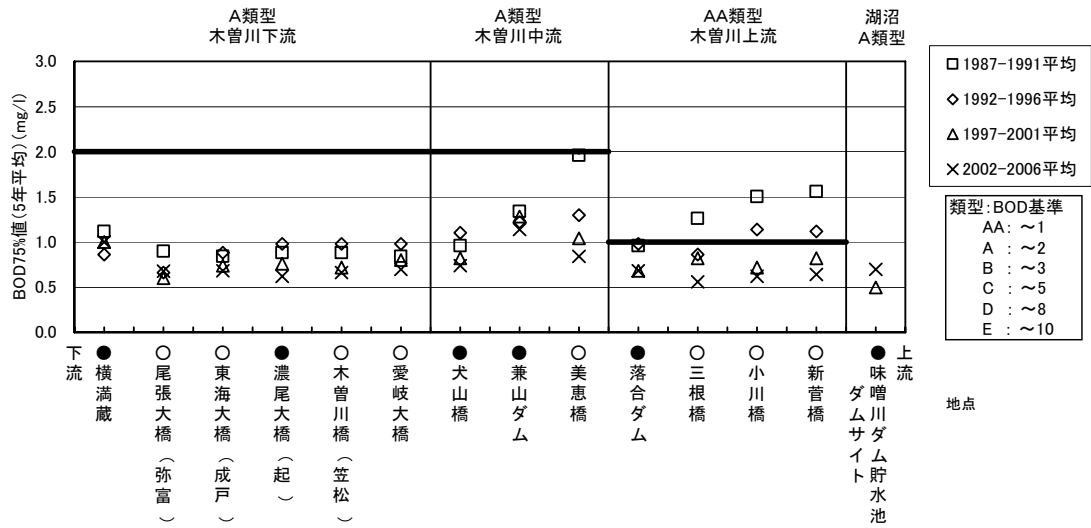
出典：公共用水域の水質測定結果(平成 16~18 年度)

表 2.11(2) 近年の水質の状況(木曾川)

対象	水域	類型	環境基準点	年度	COD					pH			DO				SS				大腸菌群数			
					最小値	最大値	平均値	75%値	基準	最小値	最大値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準
湖沼	味噌川ダム貯水池	湖沼A 湖沼II	味噌川ダム貯水池ダムサイト	H16	0.9	4.1	1.6	1.7	3	7.2	7.6	6.5~8.5	7.3	10.7	8.7	7.5	0.0	50.0	9.7	5	2	990	189	1000
				H17	<0.1	1.5	1.0	1.2	3	7.4	8.0	6.5~8.5	8.0	12.2	9.8	7.5	0.1	2.5	1.1	5	0	1300	232	1000
				H18	<0.5	2.0	1.2	1.3	3	7.3	7.8	6.5~8.5	8.5	11.9	9.7	7.5	0.4	43.2	6.8	5	0	130	14	1000
	水域	類型	環境基準点	年度	全窒素					全燐														
					最小値	最大値	平均値	基準	最小値	最大値	平均値	基準												
	味噌川ダム貯水池	湖沼A 湖沼II	味噌川ダム貯水池ダムサイト	H16	0.140	0.740	0.237	—	0.004	0.107	0.018	0.01												
				H17	0.100	0.221	0.152	—	0.003	0.007	0.004	0.01												
				H18	0.123	0.344	0.255	—	0.003	0.054	0.018	0.01												

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

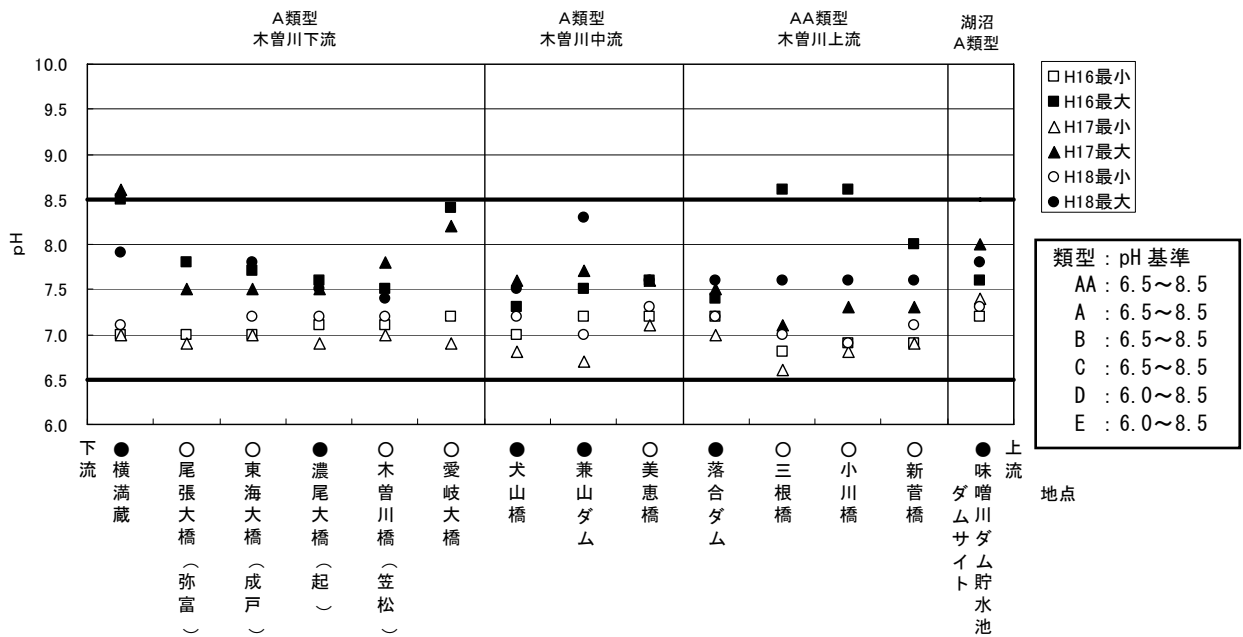
出典：公共用水域の水質測定結果(平成 16~18 年度)



地点：環境基準点(●)・補助点(○)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。
 出典：公共用水域の水質測定結果

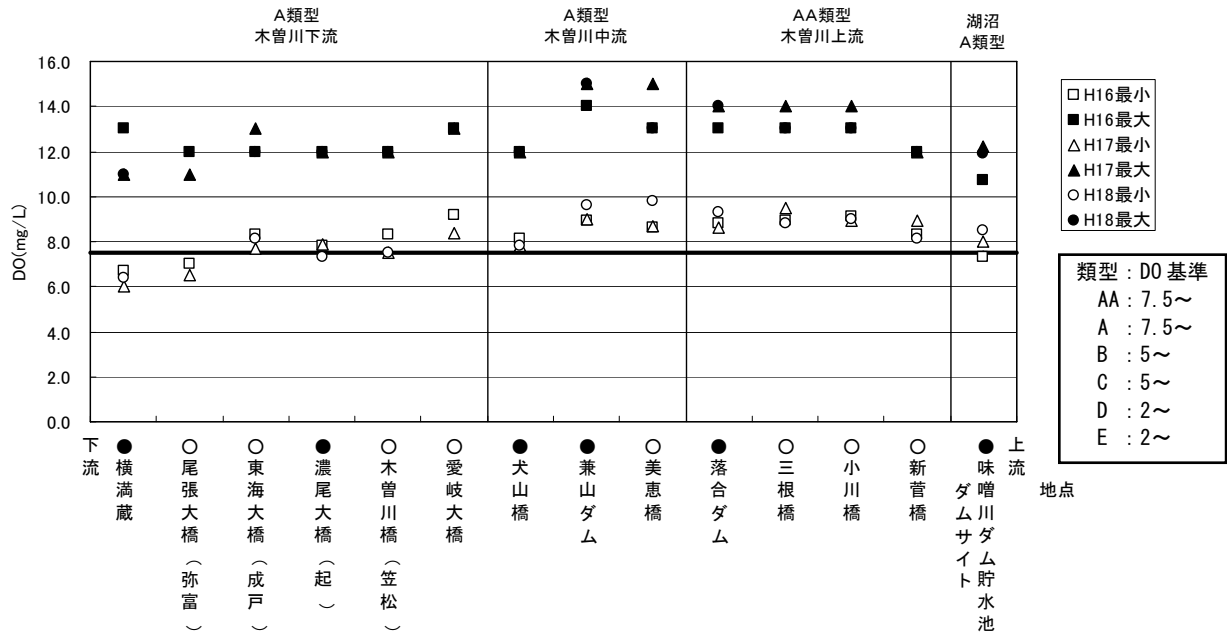
図 2.44 BOD75%値の縦断分布(木曽川)



地点：環境基準点(●)・補助点(○)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。
 出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.45 pH の縦断分布(木曽川)

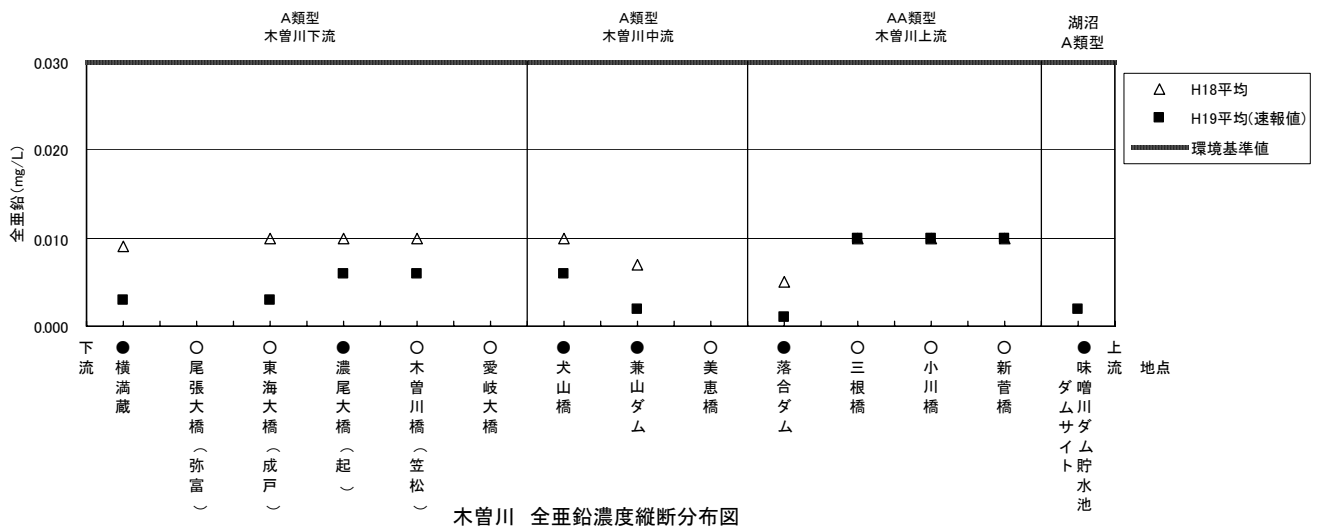


地点：環境基準点(●)・補助点(○)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.46 DO の縦断分布(木曽川)



地点：環境基準点(●)・補助点(○)

※年度平均値が<0.01、<0.03（定量下限値未満）の地点については、0.01 及び 0.03 とみなしてプロットした。また、定量下限値が<0.05 の地点のデータは除外した。

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.47 亜鉛の縦断分布(木曽川)

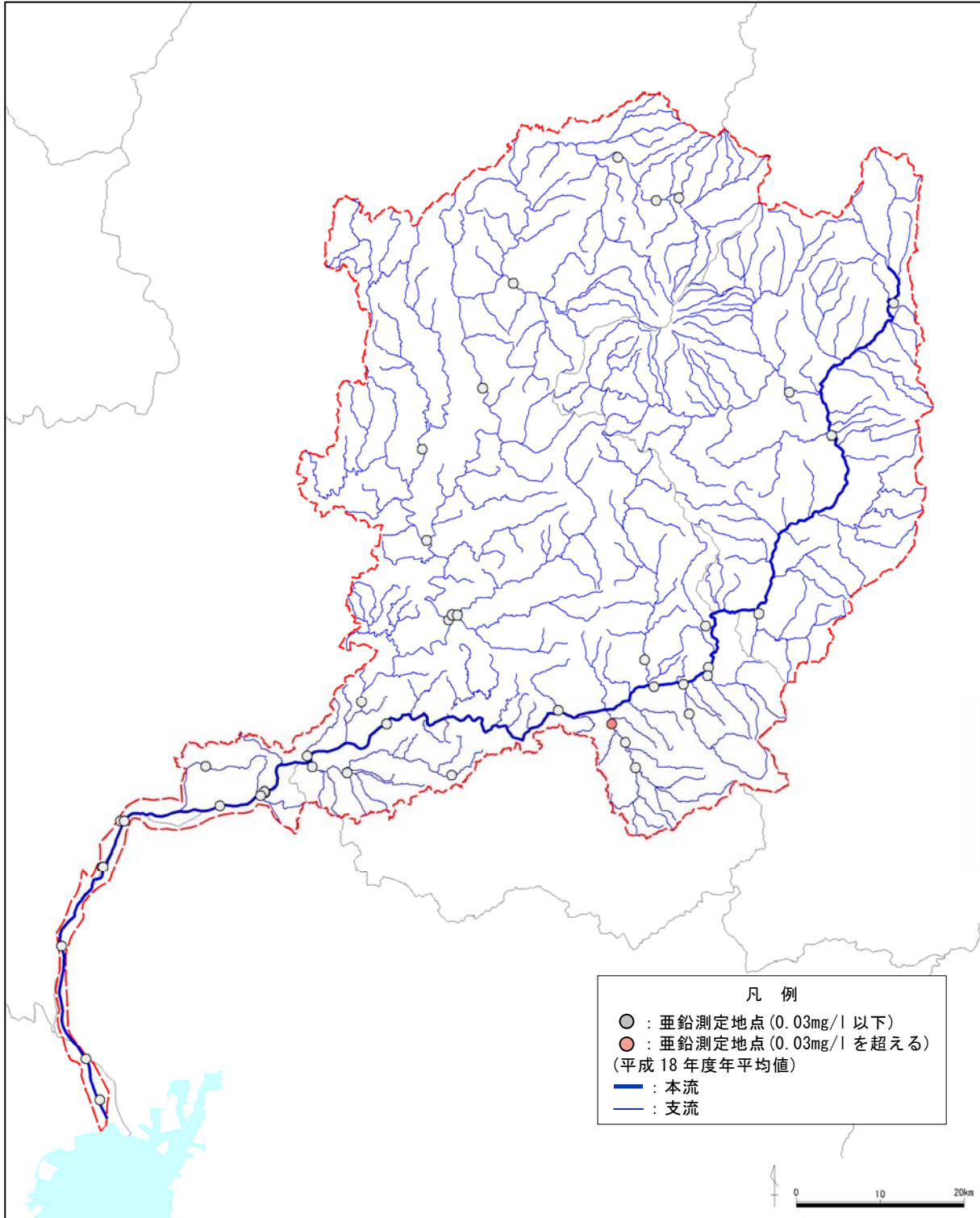
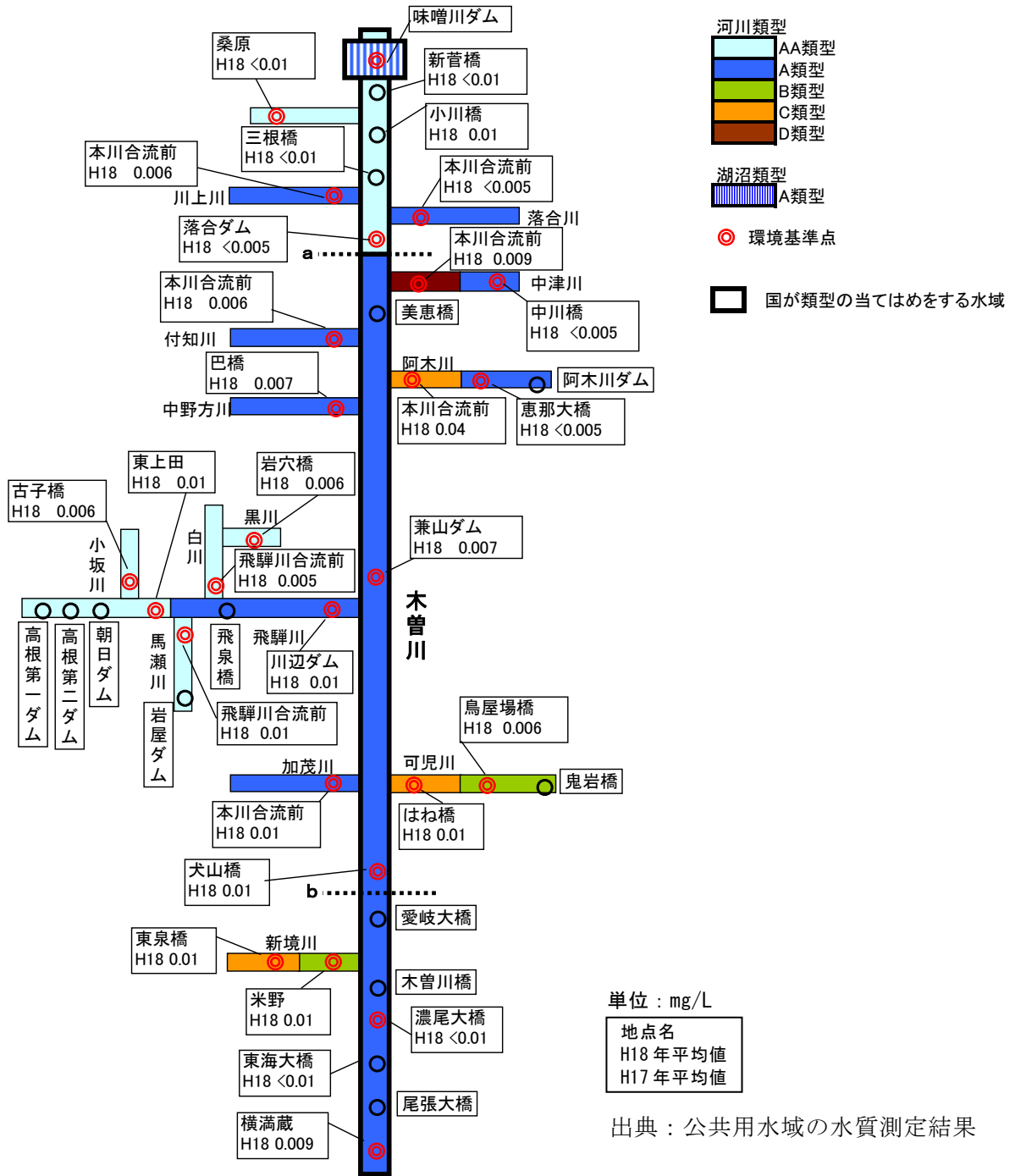


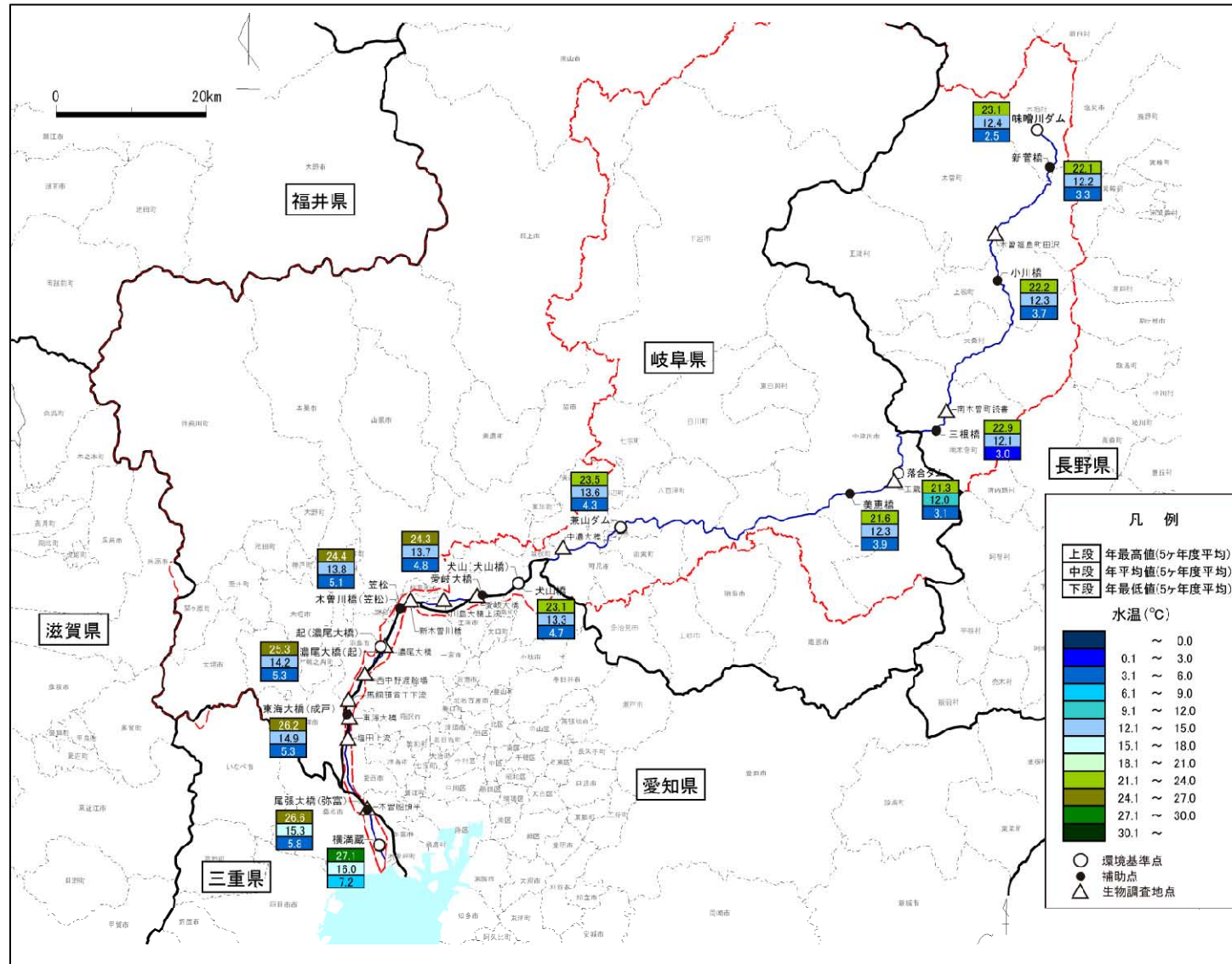
図 2.48 亜鉛測定地点(木曾川)

河川	環境基準	類型区分	区分点・区間		
木曽川	AA	木曽川上流	a	落合ダム	～ 上流
	A	木曽川中流	b	犬山頭首工	～ a
	A	木曽川下流	b	犬山頭首工	～ 下流



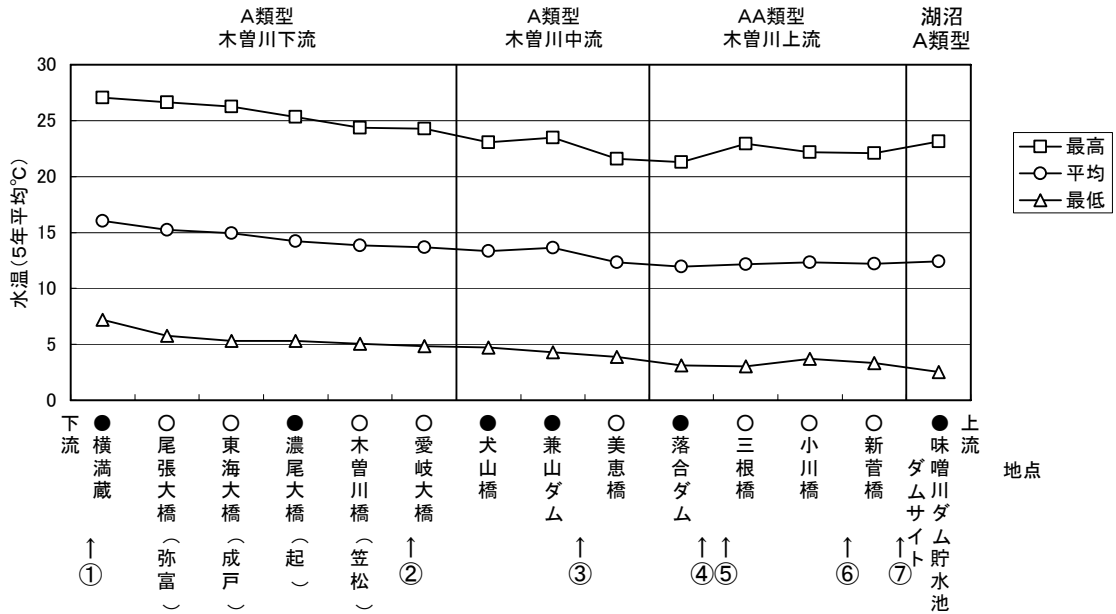
注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

図 2.49 亜鉛検出状況(木曽川)



出典：公共用水域の水質測定結果

図 2.50 水温(木曾川)



NO	河川	都道府県	処理場名	放流水質(H16年平均)	
				水温(°C)	BOD(mg/L)
①	木曽川	三重県	東部地区クリーンセンター	21.7	3
②	木曽川	岐阜県	各務原浄化センター	21.4	1.1
③	木曽川	岐阜県	丸山浄化センター	18.3	2.8
④	木曽川	岐阜県	坂下浄化センター	19.7	8.9
⑤	木曽川	長野県	妻籠クリーンセンター	17.4	3.8
⑥	木曽川	長野県	日義浄化センター	15.4	2
⑦	木曽川	長野県	木祖浄化センター	20	2.1

※最高・平均・最低は、平成 14～18 年度の公共用水域水質測定結果より、各年度において月平均水温の年最高値・年平均値・年最低値を求め、5 カ年でそれぞれ平均した値である。

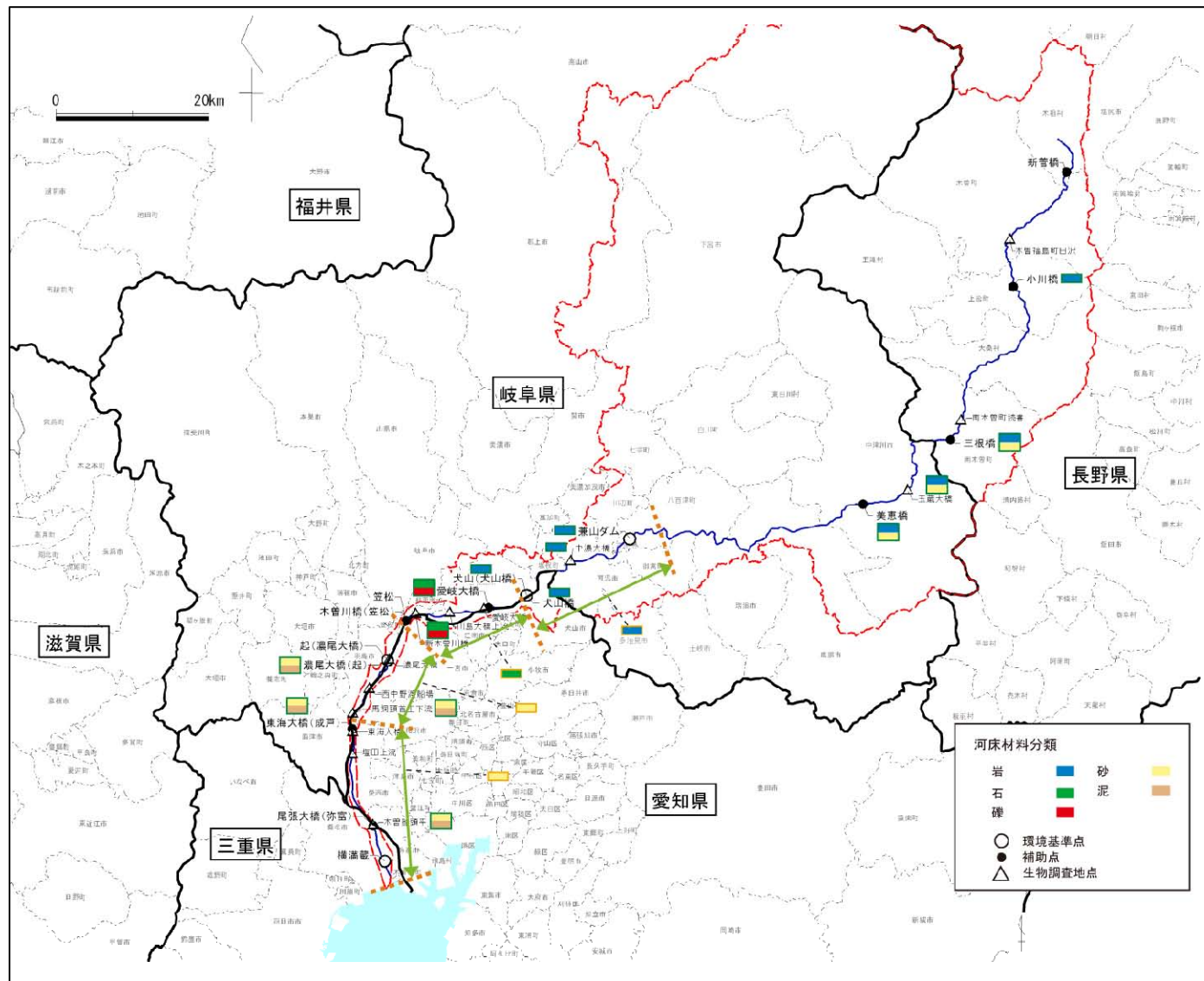
地点：環境基準点(●)・補助点(○)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

出典：公共用水域の水質測定結果

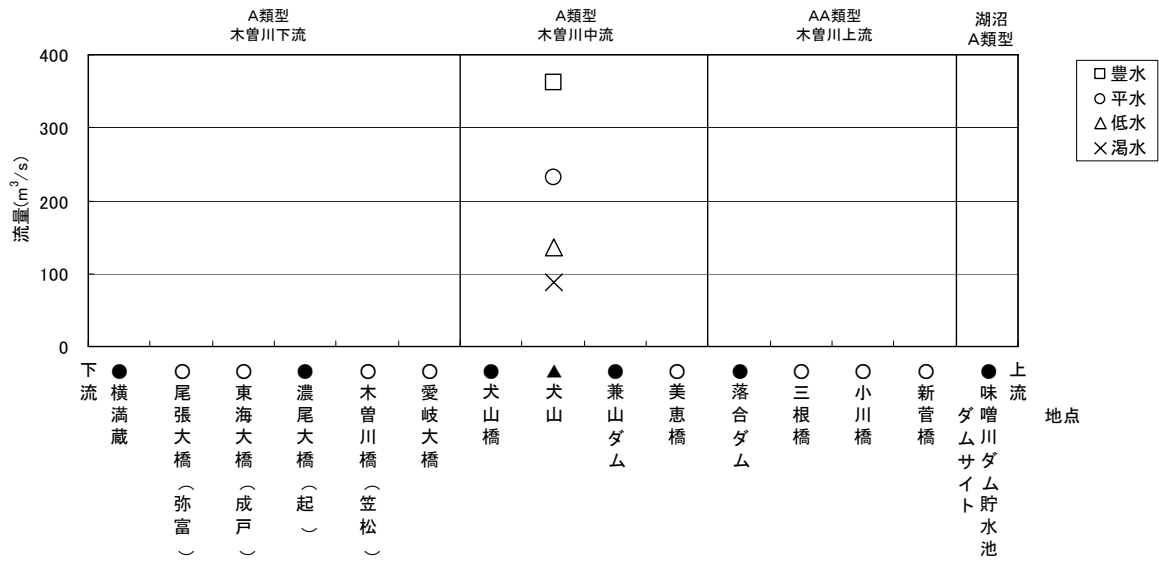
平成 17 年度版 下水道統計 第 62 号((社) 日本下水道協会、H19)

図 2.51 水温縦断分布(木曽川)



出典： は、平成 16 年度環境省調査、 「第 74 回河川整備基本方針検討小委員会 参考資料 1-1 木曾川水系の流域及び河川の概要(案)」(平成 19 年 8 月 31 日)による

図 2.52 河床材料(木曾川)

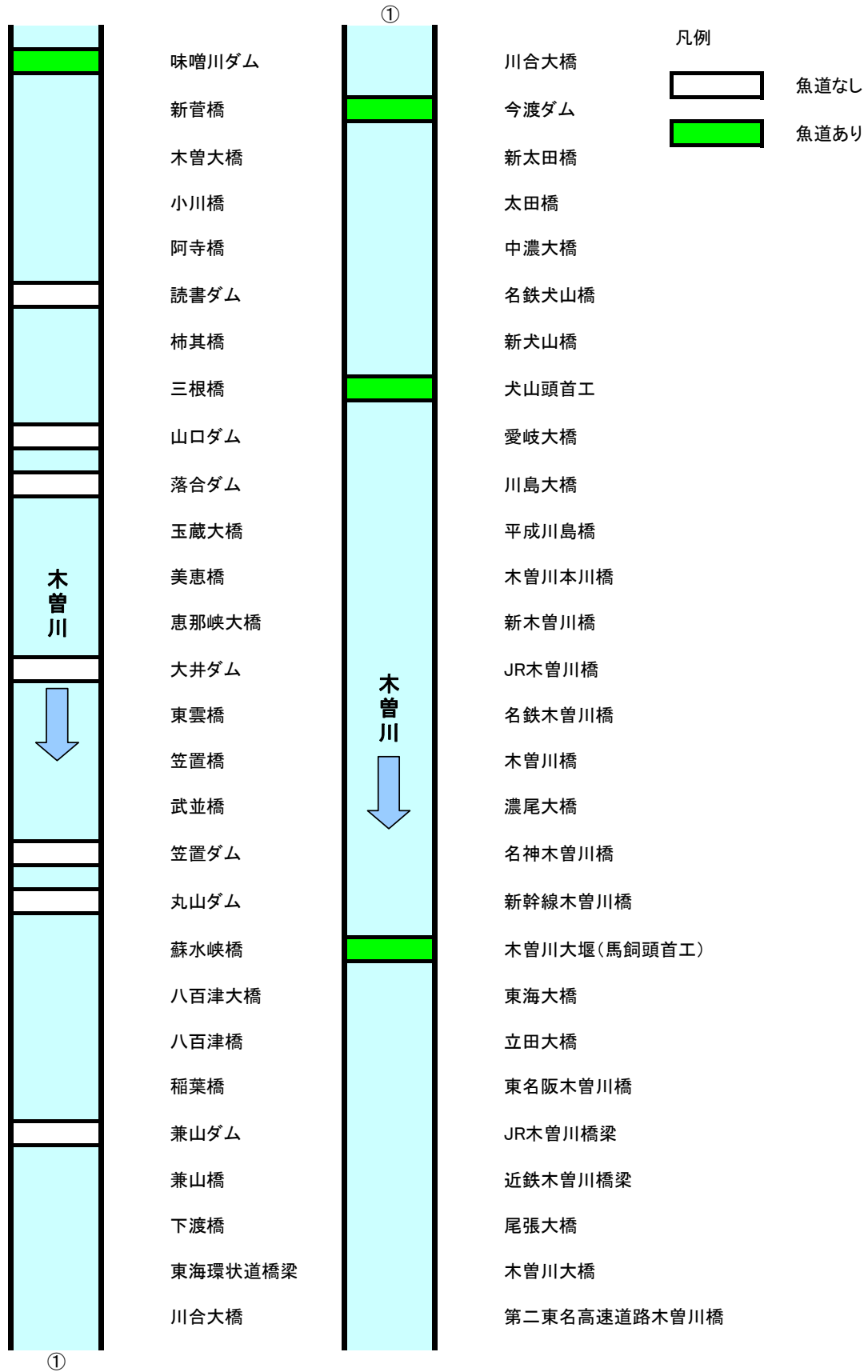


地点：環境基準点(●)・補助点(○)・流量測定点(▲)

注) 味噌川ダムの生活環境項目の類型指定は、河川 AA 類型から湖沼 A 類型に改定予定。

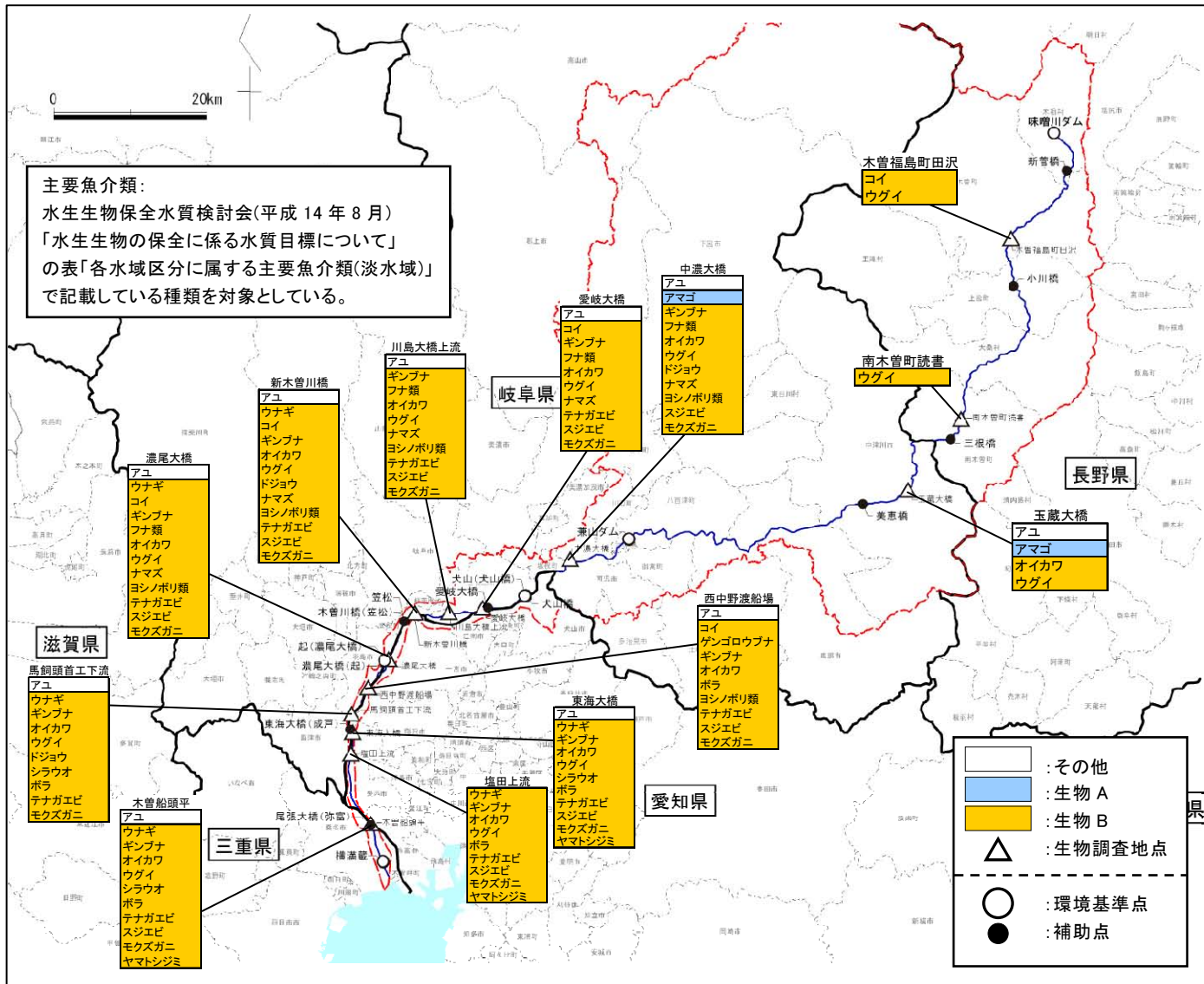
出典：流量年表 (国土交通省河川局編, H15)

図 2.53 流量の縦断分布(木曾川)



出典：国土交通省資料等を基に環境省が作成

図 2.54 主な河川横断工作物(木曾川)



出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」他

図 2.55 主要魚介類の確認状況(木曾川)

表 2.12 魚介類の確認状況(既存調査結果)(木曾川)

項目・分類・科・種名	調査地点	調査年度													
		1 木曾 船頭平	2 塩田 上流	3 東海 大橋	4 馬飼 頭首工下流	5 西中 野渡船場	6 濃尾 大橋	7 新木 曾川橋	8 川島 大橋上流	9 愛岐 大橋	10 中濃 大橋	11 玉蔵 大橋	12 南木 曾町読書	13 木曾 福島町田沢	
生物A	魚類	サケ科	アマゴ												
その他		アユ科	アユ												
生物B	魚類	ウナギ科	ウナギ												
		コイ科	コイ												
		コイ科	ゲンゴロウブナ												
		コイ科	ギンブナ												
		コイ科	フナ属の一種												
		コイ科	オイカワ												
		コイ科	ウグイ												
		ドジョウ科	ドジョウ												
		ナマス科	ナマス												
		シラウオ科	シラウオ												
		ボラ科	ボラ												
		ハゼ科	トウヨシノボリ												
	甲殻類	テナガエビ科	テナガエビ												
		テナガエビ科	スジエビ												
		イワガニ科	モクズガニ												
	貝類	シジミ科	ヤマトシジミ												
その他	魚類	ニシン科	サッパ												
		コイ科	カネヒラ												
		コイ科	タイリクバラタナゴ												
		コイ科	ハス												
		コイ科	カワムツ												
		コイ科	アブラハヤ												
		コイ科	モツゴ												
		コイ科	Sarcocheilichthys属の一種												
		コイ科	タモロコ												
		コイ科	ゼゼラ												
		コイ科	カマツカ												
		コイ科	ツチフキ												
		コイ科	ニゴイ												
		コイ科	Hemibarbus属の一種												
		コイ科	イトモロコ												
		コイ科	スゴモロコ												
		コイ科	コウライモロコ												
		コイ科	Squalidus属の一種												
		ドジョウ科	シマドジョウ												
		ギギ科	ギギ												
		コチ科	マゴチ												
		スズキ科	スズキ												
		シマイサキ科	コトヒキ												
		シマイサキ科	シマイサキ												
		サンフィッシュ科	ブルーギル												
		サンフィッシュ科	オオクチバス(ブラックバス)												
		ヒラギ科	ヒラギ												
		ハゼ科	ウキゴリ												
		ハゼ科	ピリンゴ												
		ハゼ科	ウロハゼ												
		ハゼ科	マハゼ												
		ハゼ科	アシシロハゼ												
		ハゼ科	ヒメハゼ												
		ハゼ科	アベハゼ												
		ハゼ科	ゴクラクハゼ												
		ハゼ科	カワヨシノボリ												
		ハゼ科	ヨシノボリ属の一種												
		ハゼ科	シモフリシマハゼ												
		ハゼ科	ヌマチチブ												
		タイワンドジョウ科	カムルチー												
	甲殻類	クルマエビ科	モエビ												
		ヌマエビ科	ミナミヌマエビ												
		ヌマエビ科	ヌマエビ												
		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ												
		イワガニ科	カクベンケイガニ												
		スナガニ科	アリアケモドキ												
		サワガニ科	サワガニ												
	貝類	アマオブネガイ科(+フネアマガイ科)	イシマキガイ												
		タニシ科	オオタニシ												
		タニシ科	ヒメタニシ												
		カワニナ科	カワニナ												
		カワニナ科	チリメンカワニナ												
		モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ												
		イガイ科	カワヒバリガイ												
		イシガイ科	ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)												
		イシガイ科	ササノハガイ												
		イシガイ科	イシガイ												
		シジミ科	Corbicula属の一種												

出典：国土交通省「河川水辺の国勢調査」

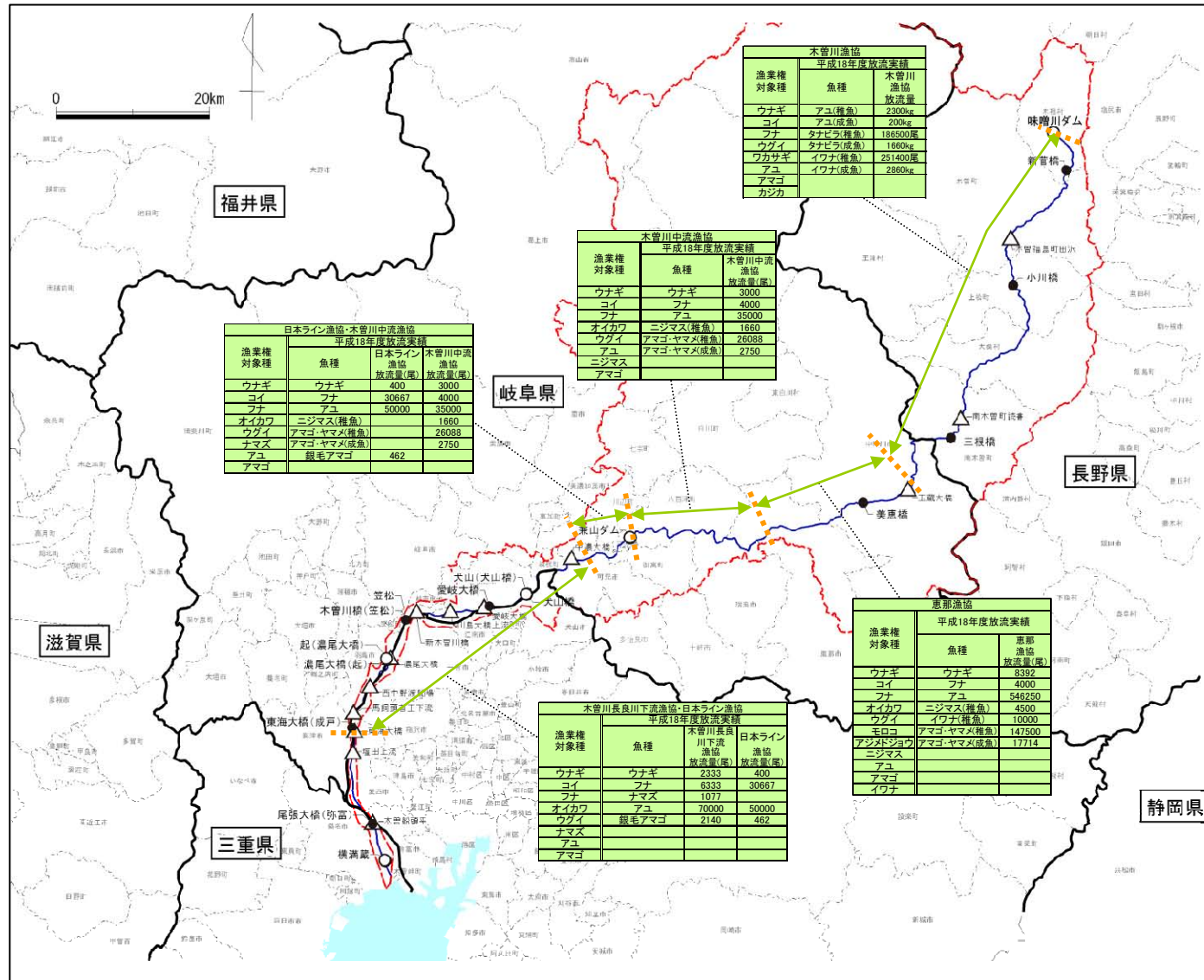


図 2.56 漁業権設定・魚類等放流状況(木曾川)